

小学生対象調査 解析結果報告書

2020年10月6日 瀧靖之, 松平泉

1. 共同研究の目的

御社の教育が子どもの非認知能力・認知能力を育み、well-beingの達成に寄与することの心理学的エビデンスを得ること。

2020年7月～8月は小学校低学年児を対象として、生徒様(コペル群)と対照群の認知能力や非認知能力を比較し、御社の教育の効果検証を行った。

2. 研究方法

参加者	コペル群 (N=41)	対照群 (N=27)
平均年齢	7.34歳	7.51歳
性別	男子27名, 女子14名	男子10名, 女子17名
居住地	仙台14名, 福岡27名	仙台19名, 福岡8名

認知能力検査 | ウェクスラー知能検査 (WISC-IV)

全体的な認知能力と、言語理解, 知覚推理, 作業記憶, 処理速度の能力を数値化する検査。年齢による差が無いように作成されている。

非認知能力検査 | 小学生版QOL尺度 (親用)

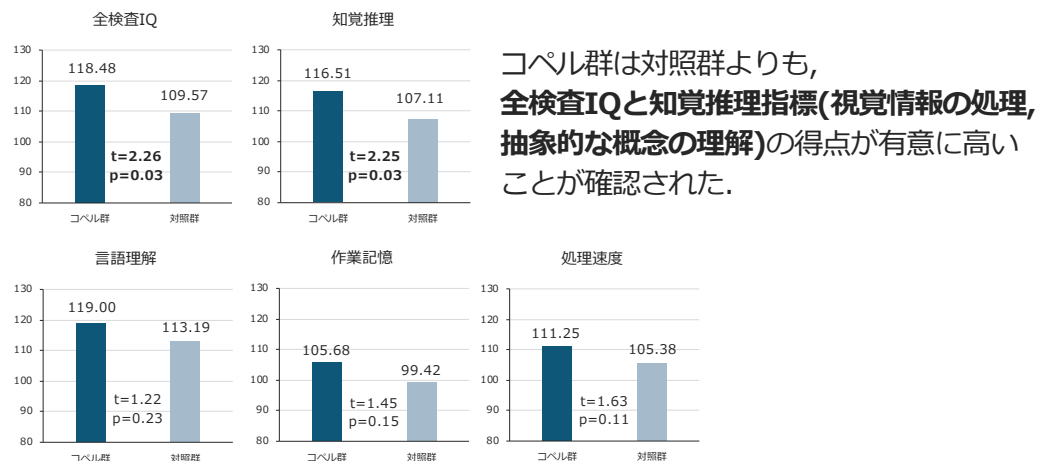
保護者の視点から子どものwell-beingを評価する尺度。身体的健康, 精神的健康, 自尊感情, 家族, 友だち, 学校生活の6下位領域がある。

分析方法 | 独立した2群のt検定 (コペル群, 対照群の平均値を比較)

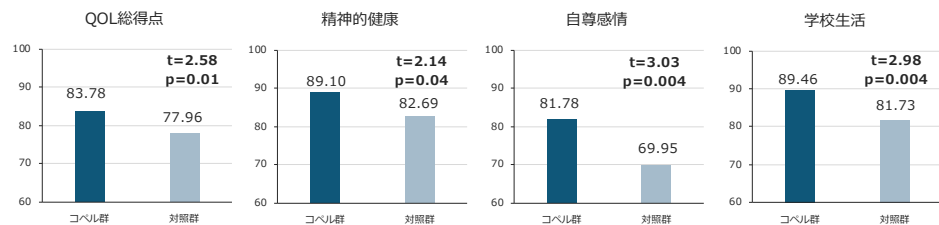
記入漏れサンプル等を除外して、最終的な分析対象はコペル群35名(男子22, 女子13), 対照群26名(男子10, 女子16)。

3. 分析結果

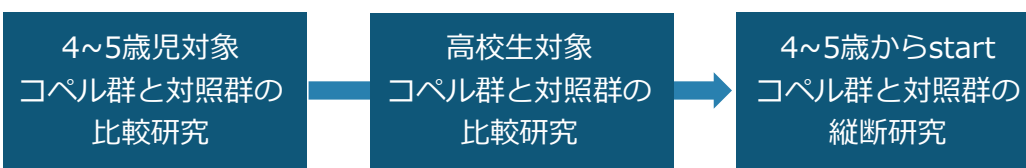
3-1. 認知能力検査の得点の群間比較



3-2. 非認知能力検査(QOL)の得点の群間比較



4. 今後の展望



幼児や卒業生を対象とした横断研究の知見を重ねた後、コペル入室から数年間に渡って生徒様の発達変化を追跡する縦断研究の実施により、更なるエビデンスレベル向上を目指す。